

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成26年5月15日(2014.5.15)

【公表番号】特表2013-527562(P2013-527562A)

【公表日】平成25年6月27日(2013.6.27)

【年通号数】公開・登録公報2013-034

【出願番号】特願2013-503076(P2013-503076)

【国際特許分類】

H 01 B	7/02	(2006.01)
H 01 B	7/14	(2006.01)
H 01 B	13/14	(2006.01)
D 06 M	15/227	(2006.01)
D 06 M	15/263	(2006.01)
B 32 B	15/02	(2006.01)
B 32 B	15/085	(2006.01)
B 29 C	47/02	(2006.01)

【F I】

H 01 B	7/02	F
H 01 B	7/14	
H 01 B	7/02	Z
H 01 B	13/14	A
D 06 M	15/227	
D 06 M	15/263	
B 32 B	15/02	
B 32 B	15/08	1 0 3
B 29 C	47/02	

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月28日(2014.3.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

マルチフィラメント・ワイヤー10は好ましくは銅から成るが、アルミニウム、銀又はスチール等の他の適当な導体から成ってもよい。このワイヤーは好ましくは30～70本のストランド(又はより線；strand)、より好ましくは少なくとも50本のストランド、典型的には約61本のストランドを含んで成る。個々のストランドは、ストランドが近接近した状態で16mm<sup>2</sup>の導体で好ましくは0.5～0.7mm、好ましくは約0.58mmの径を有する。サイズの大きなストランドは、ストランド間のより圧力のかかるポイントや隙間で低い可撓性になり易く、薄壁のコアに悪影響を与える。又、光ファイバー導体等の非金属コアが使用されてよい。導電性コアの径は16mm<sup>2</sup>の導体で好ましくは4.80～5.10mmである。外側のストランドは、円形で、なだらかで、ストランドの高低差がないコンパクトな外面および低いコロナインパクトを供するため、10%好ましくは5～9%好ましくは詰められる。又、標準的なケーブルのワイヤー中のストランドがコア径の12倍のより長さを有することに比べ、本発明のワイヤーのストランドはコア径の6～8倍のより長さを有することが可能である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

マリン・ケーブル用に、現在の44本のワイヤープラットフォームの使用を更に改良する新しい材料化合物が開発されている。コア材料は、標準の44本のワイヤーコア化合物(3.8)よりも低い誘電率(3.1)に設計されている。これにより、コアを互いに近づけて詰めることができ、新規の高い定格電圧を同じサイズのケーブルから得ることができる。良好な可撓性、韌性を供し、又、10,000kmという長さが長い場合であっても、不良なく押し出し可能なPVDFホモポリマーおよびPVDFコポリマーから成る特有な組合せに基づく新規の外側のPVCジャケット層が開発された。